

議事録要旨

会議の名称	第 1 回勝浦市地方創生総合戦略策定推進会議
開催日時	令和元年 6 月 2 8 日（金） 1 4 時 3 0 分から
開催場所	勝浦市役所 5 階 第一員会室
会議の議題	1. 平成 3 0 年度地方創生推進交付金事業の活動報告及び事業検証 2. 平成 3 0 年度地方創生事業活動報告及び事業検証 3. 次期総合戦略策定スケジュール等 4. その他
会議の概要	<p>出欠確認</p> <p>会長から、出席者 1 6 名であり、定足数に達していることから会議の成立について説明。</p> <p>新委員紹介及び会議趣旨説明</p> <p>資料 地方創生総合戦略策定推進会議名簿</p> <p>資料 勝浦市人口ビジョン（概要版） まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 2 7 年度 1 0 月策定）</p> <p>資料 5 勝浦市地方創生総合戦略策定推進会議設置要綱</p> <p>資料 6 勝浦市まち・ひと・しごと総合戦略推進策定体制</p> <p>概要</p> <p>事務局から新委員の紹介。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、国、県が策定した戦略を基に、市における「人口減少と地域経済縮小の克服」、「まち・ひと・しごとの創生の好循環の確立」等を目指すため平成 2 7 年に計画策定した旨説明。また、平成 2 7 年度から令和 1 年度までの 5 年間の戦略期間であり、今年度時期総合戦略の策定年度であること、成果指標、PDCA サイクルによる施策展開を図る旨説明を行い、本会議の意見を反映し、成果指標に基づく事業検証をすることで、本戦略の推進を図ること、次期総合戦略を策定していくことを目的として設置されている旨説明。</p> <p>議題（1）平成 3 0 年度地方創生推進交付金事業の活動報告及び事業検証</p> <p>資料 1 かつうら観光ぷらっとフォーム事業／企業立地推進事業</p> <p>資料 3 評価基準</p>

資料４ 勝浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略 各基本目標における
数値目標（抜粋）

概要

事務局から評価基準に基づき評価を行っていること、委員の評価については、疑義等がなければ事務局案を委員評価とする旨委員全員の了承があった後に、平成３０年度に実施した下記２事業の説明を行った。

①かつうら観光ぷらっとフォーム事業

質疑要旨

委員（鈴木）： 評価を「Ｃ」とした理由について。

担当課： 大きな要因として、ＫＰＩ－１交流人口（観光入込客数）が目標値１,２００千人から、実績１,０９７千人であり目標を下回ったことから評価を「Ｃ」とした。

委員（川村）： 改善策として海水浴場の誘客策についてはメディアへの露出、情報発信の強化を図るとしているが、その具体策について。

担当課： フェイスブック、インスタグラムの開設等のＳＮＳの活用、テレビ等のメディアに露出することが１０年間で最高の入込実績という結果と分析している。今後は各守谷以外の海水浴場も紹介するなど平均的に底上げを図っていく。

委員（川村）： 夏は海水浴、冬はビッグひな祭りがあり観光客も集まるが、それ以外のシーズンのイベント等の企画で交流人口の拡大に繋がる考えは。

担当課： 観光商工課で所管しているイベントは、７月、８月を海水浴場、花火大会、１１月の商エイベント、２月、３月のビッグひな祭りとあるが、それ以外の月を埋め、底上げできる常設的なイベントを検討している。

これに加え、現在、（一社）観光協会では６月に観光庁に対してＤＭＯの登録法人の申請をしており、その活動の中で、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム、観光資源を活かしたインバウンドなど、夏季以外でも誘客を図っていけるよう準備を整えている。また、商店街ではｅスポーツ大会を開催するなど、商店街振興を絡めて交流人口の拡大を図るなどの商店街振興などと絡めた取組も行っている。

委員（吉野）： 南房総をゾーンとした広域連携の取り組みについて。

担当課： 夷隅地域、鴨川市、南房総市を視野に連携を検討しているが、直近ではいすみ鉄道やお城を利用した連携を検討している。

委員（渡邊）：新勝浦市漁業共同組合でもダイビング事業を鵜原、行川で行っているが、PRなど、市と協力できるものがないか。またダイビング利用者から、周辺のトイレ環境についても要望が出ているので相談したい。

担当課： 海の魅力をインバウンドに活かしていきたいと考えており、その検討を進めていく中で、ダイビング協会の参加もしている状況であることから、漁協、ダイビング協会双方の意見を伺いながらPR方法やトイレ環境の整備を含めて検討していきたい。

委員（渡邊）：ダイビングには若い方が来ていることもあり、PRなどは新勝浦市漁業共同組合だけで成立するものでもないので、協力をお願いしたい。

担当課： 海の魅力をインバウンドに活かしていきたいと考えており、その検討を進めていく中で、ダイビング協会の参加もしている状況であることから、漁協、ダイビング協会双方の意見を伺いながらPR方法やトイレ環境の整備を含めて検討していきたい。

また、ダイビングに限らず、釣船など、海を利用する方に向けてお互いに協力することで、関係人口の増加から移住定住に繋がられるよう合わせて検討していきたい。

委員（鈴木）：国大武道大学の学生は勝浦市の中でも、多くの割合を占めると思うが、市として協力して何かを行う考えはあるか。また、大学に求めている部分はあるか。

担当課：スポーツツーリズムで協力していければと考えている。また、新たに武道ツーリズムという言葉も出来ているので、そういった部分で連携協力をお願いしたい。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の意義がない旨確認と了承がされた。【評価結果C】

②企業立地推進事業

質疑要旨

委員（鈴木）： 資料にもあるように課題を企業が進出することが難しいという理由として、地理的条件としているが、それを有利にす

る方法はないのか。自分の分析としては、道路網の遅れが、企業進出の遅れになっていると思っているが、それを仕方ないということでは片付けずに、何とかできる考えを確認したい。

担当課：道路というインフラは重要と認識している。都道府県別にみても、近年、茨城県が企業誘致数１位という状態が続っており、これは圏央道の開通を見越して企業進出が相次いでいると確認している。千葉県内でも、企業誘致が進んだところは、圏央道の内側であり、外側では道路網が整備されていないことによって、企業の進出が進まないという現実からして、道路網というのは重要と認識している。

勝浦市内の道路整備としては、松野バイパスの２工区開通により、今後は第１工区と進んでいくという部分や、圏央道の横芝以降の開通も見越して、取り組みを行いたいと思っている。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の意義がない旨確認と了承がされた。【評価結果Ｂ】

議題（２）平成３０年度地方創生事業活動報告及び事業検証

資料２ 地方創生総合戦略事業 事業評価シート

資料４ 勝浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略
各基本目標における数値目標（抜粋）

①観光商工課分 質疑

委員（川村）：資料２、８ページ商店街の活性化について、スタンプラリーを行い機会を与えたとあるが、数値的なもので何をもって機会を与えたと検証しているのか。

担当課：公式で発表している数字はないが、イベント行うことで国際武道大学の学生や、若い世代の集客が図れたと認識している。

委員（川村）：数値的なものがないので、評価できたかという点。

担当課：何もしていない状態よりも、スタンプラリーを行うことで集客が図れたという点で評価している。

委員（川村）：やったというだけでの点で判断するのではなく、商店街にアンケートを取るなどで今後は評価をしてもらいたい。

担当課：評価判断に至る数値の把握に努めたいと思う。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の意義がない旨確認と了承がされた。

No.131 企業立地の促進 【評価結果B】

No.221 UIJ ターンの促進 【評価結果B】

No.222 田舎暮らしの魅力発信 【評価結果C】

No.223 若者定住の促進 【評価結果C】

No.132 中小企業の振興 【評価結果B】

No.133 商店街の活性化 【評価結果B】

No.134 起業者支援 【評価結果B】

No.135 就労支援 【評価結果B】

No.211 観光産業の充実と魅力の向上 【評価結果B】

No.212 イベント活動の充実と新たな観光資源の整備 【評価結果B】

②企画課分 質疑

委員（栗原）： 資料2、17ページのNo.422 公共交通の整備で、改善欄、免許返納者やキャンペーンを実施するなど増加に努めるとあるが、総野地区はデマンドタクシーの運行区域外。元気な年寄りも多いので、交通弱者の対策は是非お願いしたい。

22ページ、No.421 地域交流の拠点、生活利便施設の整備（小さな拠点）については、道の駅計画が白紙になったのは残念。

そういった中で、地域交流の拠点ともいえる、総野地区などの山手側の年寄りが近くで買い物に困らないような施設の計画は今後も検討してもらいたい。

企画課： 1点目の交通弱者対策については、千葉工業大学の協力を得て、聞き取り調査を行っている。そういった声を確認した上で、交通体系の検討を行っていく。

2点目は、買い物支援ということで、移動販売等を含めて検討していく。

委員（川村）： 同様にNo.422 公共交通の整備で、観光地といわれる場所は、巡回バスなどがあり地元市民も使え、観光客も使えるようになっている。そういった公共交通体系を検討してもらいたい。

No.411 住民主導型地域づくり支援では、いい制度だと思う。酒蔵巡りなどはインバウンドに有効かと思うので、これを観光協会と連携して、体験型観光に結びつけてもらえればと思う。こういった活動を上手に発信して、強化してもらいたい。

企画課： 1点目の公共交通の整備については、路線バス、高速バス、タクシー、デマンドタクシーなどの交通事業者を有機的に繋げた検討を行っていきたい。

2点目は、住民主導型地域づくり支援については、開始から4年が経過し、地域課題に向けた活動を行ってもらって根付いている途中である。今後は、5年間の補助金が無くなった後も持続可能で地域課題に取り組んでもらえるよう、自主財源の確保になるような取り組みに対して、先進事例を踏まえて一緒に検討をしていく。

委員（川村）： 確かに補助金が無くなった時点で活動が終わってしまうのでは、5年間補助してきた意味が無くなるので、先にも言ったとおり、歳入としてインバウンドや観光客を取り込んで地元にお金が落ちる仕組みが必要になってくると思うので、そこまで繋がるように市として手助けしてもらいたい。

委員（吉野）： 守谷・鵜原海水浴場などには、夏、外国人客の割合も多くなっていると聞いている、そのような中、先ほどから出ている、インバウンド対策については、日本人の目線で行われることが多く、外国人目線で行う必要があると感じているが、国際武道大学の留学に協力を得て行うなど具体的な考えはもっているか。

企画課： 留学生の協力までには至ってないが、市に来ている技能実習生との市民交流を図っていければと考えている。今までも小学校などでは、留学生と交流をしているという実績もあるので、そういったことを市民まで裾野を広げ、インバウンドに必要部分の意見交換をできるよう検討していきたい。

委員（清野）： 今の話の中で、長期の留学生については、今現在も行っている。ただ、それが広く知られていないという状況にあるかと思う。

インバウンドを考えた場合、国際武道大学に来る短期の研修性は年間300から400人いる。これから世界大会、オリンピックが行われることから700人近くなると予測している。彼らの練習スケジュールの空いた時間を活用して、先ほどから意見が出ているものの加えた交流や市内を案内することで、世界に勝浦市の情報を発信するといったやり方があるのではないか。

ホストシティになってしまうと、特定の国の協議に限られてしまうこともあるが、大学と市は包括協定を結んでいることもあるので、そういった中で検討していったらどうか。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の意義がない旨確認と了承がされた。

No.314 子どもを産み、育てる支援（出産から高校を卒業するまで）
【評価結果B】

No.221 広域連携の促進 【評価結果B】

No.414 国際化の推進 【評価結果B】

No.422 公共交通の整備 【評価結果C】

No.113 地（知）の拠点大学による地方創生の推進 【評価結果C】

No.213 漁村・農村観光の促進 【評価結果B】

No.411 住民主導型地域づくり支援 【評価結果A】

No.421 地域交流・地域振興施設の整備 【評価結果E】

③生涯学習課・芸術文化交流センター分

④学校教育課分

⑤都市建設課分

⑥農林水産課分

⑦市民課分

⑧福祉課分 質疑

委員（渡邊）： 24ページ、No.311 婚活の支援について、水産業に係るものは独身者が多くいるので、こういった支援が行われているのをもっと広く知らせる必要があるのではないか。恥ずかしがり屋もいるので、そうでないかもしれないが。漁協として協力できればと思う。

委員（鈴木恒夫）： No.314 の目標事項である子どもによるまちづくり提案事業でこういった提案があったかお聞かせ願いたい。

企画課： 豊浜小学校からの提案は、校庭の一部が公園になっており、地域の憩いの場となっていることもあり、その整備を3年かけて行うというものです。

委員（栗原）： 24ページ、No.311 婚活の支援についてですが、結婚相談員というのはいるのか。

39ページ、No.412 国際武道大学との連携による健康増進で、移動手段が乏しい地区へ送迎バスの運行ということだが、今までは、社会教育バス「あじさい号」で行っていた。

あじさい号を近年廃止しているが、今後もそういう考えで送迎バスを行っていくのか。

企画課： 婚活支援員という名称に変わって同様の支援を行っている。

送迎バスの運用について、市がバスを保有することは、維持管理経費が掛かる中で、必要な都度、委託することが安価で効果的という判断から現在の運用を行っている。

委員（川村）： 27ページ、No.312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）の多子世帯の経済的負担の軽減の5世帯に対して助成したということだが、分母がわからないと評価がしにくいので分母の確認をしたい。

31ページ、No.414 国際化の推進で、上野小学校のみの留学生との交流については、他の小学校に拡大するよう検討してみてはどうか。

33ページ、No.224 住環境の整備については、ホームページで周知を行っただけで、担当課評価Bになっているが、逆に35ページ、No.111 地場産業の育成支援は関係機関で連携して担当評価はDという差がある。

住環境の整備については、地元の不動産屋に啓蒙活動を行ったうえでの結果なのか。ホームページは、情報発信しているが、見に来てもらわなければ情報が伝わらない。ホームページだけの活動ならば、周知が足りないのではないか。そういうことでのB評価は高いのではないか。

37ページ、No.121 農林水産物の高付加価値化とブランド化について、水産物は有名だが、農産物は弱いと感じている。そういった上での「いすみ米」のブランド化は必要と感じている。

南房総市などでは、地域商社が設立され、地元農産物を使って一時加工し、それを道の駅などで販売するとともに、情報発信していくなどの取り組みもあるので、地域商社の設立も今後検討してみてはどうか。

企画課： No.312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）の多子世帯の経済的負担の軽減世帯については、後日確認し回答します。

No.121 農林水産物の高付加価値化とブランド化については、市の大きな計画の中で、今回の総合戦略の他に、市では総合計画というものがあり、地域資源を活かした観光産業、漁業、農林業と

いう基幹産業を発展させていくとしているので、重点的に取り組んでいます。

委員（清野）： 25 ページ、No. 412 国際武道大学との連携による健康増進において、担当課評価 B になっているが、学校施設開放事業登録団体数を基準にしているかと思うが、行っている内容のタグラグビーや器械体操について、他にはない事業を実施している。

大人の体力測定事業についても、非常に効果がある事業と思うるので、評価が高いのではないか。

年齢的に自身の体力の指標がわかるので、今後も広報周知を行ってほしい。

39 ページ、No. 412 国際武道大学との連携による健康増進についても、大学と協力して健康ハツラツ教室で健康増進しているので、受診率のみを見ると評価が低くなってしまうのはわかるが、もう少し評価が高くていいのではないか。

質疑終結後、議長から各委員に対し、質問内容を確認した上で「25 ページ No. 412 国際武道大学との連携による健康増進」、「27 ページ、No. 312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）」、「33 ページ、No. 224 住環境の整備」、「39 ページ、No. 412 国際武道大学との連携による健康増進」を除いた事務局評価を、委員の評価とすることの確認があり、各委員の意義がない旨確認と了承がされた。

No. 311 婚活の支援 【評価結果 B】

No. 313 子どもを産み、育てる支援（就学から高校を卒業するまで）
（海外派遣事業・外国語指導助手）【評価結果 B】

No. 313 子どもを産み、育てる支援（就学から高校を卒業するまで）
（郷育プロジェクト）【評価結果 B】

No. 322 学校の整備 【評価結果 B】

No. 414 国際化の推進 【評価結果 B】

No. 111 新規農業者への支援及び環境整備 【評価結果 D】

No. 112 新規漁業者への支援及び環境整備 【評価結果 B】

No. 121 農林水産物の高付加価値化とブランド化 【評価結果 B】

No. 312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）
（産後ケア等）【評価結果 A】

No.312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）
（乳児おむつ助成受給券・保育所における多子世帯の保育料助成）【評価結果B】

No.321 子育て支援施設の整備 【評価結果B】

個別の評価事案

No.412 国際武道大学との連携による健康増進
（バレーボール教室、器械体操、タグラグビー）【評価結果A】
（委員評価内容 B 3名 A 9名）

No.224 住環境の整備 【評価結果 D】
（委員評価内容 B 1名 C 4名 D 8名）

No.412 国際武道大学との連携による健康増進
（健康増進活動支援）【評価結果C】
（清野委員より、活動は評価するものだが、特定検診受診率から考えれば、Cは妥当であり、各委員において評価の基準をどこで評価するのかという補足あり）
（委員評価内容 B 2人 C 11名）

次回評価事案

No.312 子どもを産み、育てる支援（妊娠から就学前まで）
（幼稚園における多子世帯の保育料助成）

議題（3）次期総合戦略策定スケジュール等

資料7 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて

質疑 なし